

# 総目次『北緯五十度』（北緯五十度社）

『フェンスレス』オンライン版（第二号）● 特別付録  
資料

# 『北緯五十度』

北緯五十度社発行

昭和五年一月～昭和十年六月（全十二冊）

## 【創刊号】

昭和五年一月二十日発行<sup>\*1</sup>

### 〔表紙〕

農婦（＊版画）

村に残る友への便り（＊詩）

差押／お天気のえゝ日（＊詩）

姉に送る手紙／解放された葛西暢吉に（＊詩）

或る会合の後に——SとWとにおくる詩（＊詩）猪狩満直

〔無題〕（＊版画）

一着の外套（＊詩）

〔後記〕

〔裏表紙〕

渡邊茂  
葛西暢吉

眞壁仁  
更科源藏

11 7 4 2 1  
11 7 3

### 〔表紙〕

〔扉〕

子供を連れ去られた母に（＊詩）

炭坑長屋物語（＊詩）

北海道の樺太／八号の一／十号の七／十号の  
五／八号の三／九号の二／九号の四／十号の  
八／九号の七／八号の二

猪狩満直  
更科源藏

### 第三号

昭和五年五月頃発行<sup>\*1</sup>

### 〔表紙〕

〔無題〕（＊版画）

漁村にて（思ひ出、二題）（＊詩）

ヒゲの生えた自画像（＊詩）

〔無題〕（＊版画）

娘達の話（＊詩）

〔後記〕

〔奥付〕

眞壁仁

更科源藏

12 10 9 7 2 1  
10 8 5 3

竹内てるよ

眞壁仁

更科源藏

雨の中の見知らぬ少女に（＊詩）  
おい貧乏之人仲間（＊詩）  
再び小さい弟に寄せて（＊詩）

眞壁仁  
葛西暢吉  
渡邊茂

20 16 14  
13 19 15

5 4 3 1  
13

### 〔裏表紙〕

第一号 昭和五年一月二十五日発行



村の話	(二)	(*詩)	猪狩満直
どん底の詩	(一)	(二)	(*詩)
叩き大工の詩	ほノ／そノ九／にノ四	(*詩)	葛西暢吉
敵は本能寺に在り——再び高山くんへ	(*評論)	猪狩満直	古譚よ
がまん	(*詩)	燃えろ	(*評論)
ある時	(*詩)	渡邊茂	眞壁仁
古譚の学校	(*詩)	草野心平	
セツコの詩	(I)／セツコの詩	(II)	ヨス
坊の詩／平の詩	(I)／平の詩	(II)	平の
詩(III)／葡萄の種／虱／ナンコの詩	／クニ		
坊の綴方／赤切／出稼	／つ		
〔扉・目次〕	後記	更科源藏	
〔表紙〕	鉄筆言	猪狩満直	
〔裏表紙〕	〔奥付〕	更科源藏	
小森盛君の『虚無観』に就いて	(*評論)	坂本七郎	中島葉那子
出稼ぎの話	(*詩)	中島葉那子	竹内てるよ
詩一篇	(*詩)	7 6 4 3 1	44 42 41 40
		5	42 41
			32 30 28 22 14 11 7 5 3
			39 31 29 27 22 13 10 6

雪の日（＊詩）  
坂本七郎 猪狩満直

叩き大工の詩　への二／への三（＊詩）  
葛西暢吉 岩瀬正雄

悲劇（＊詩）  
古澤の学校（＊詩）

ヨス坊の詩（三）／ステッ子の詩／綴方（一）  
／綴方（三）／泥鰌すくひ／星座／ヨス坊の詩  
（三）／理科の実験／マモの詩／猫

背中（＊詩）  
父（＊詩）  
父（＊詩）

升形駅／原っぱ／最上川（二）／渡し／村  
（一）／昌ちゃん／村（二）／殿様／美人淘  
汰／最上川（二）／恋愛の一章

【広告】（＊伊藤和『泥』他／『北緯五十度詩集』予約募集）  
奥付  
〔裏表紙〕

後記  
草野心平 渡邊茂 真壁仁 渡邊茂

〔広告〕（＊鈴木勝『農民民謡集』／鈴木致一『詩集 葱』  
詩集『種薯』の著者 更科源藏君に就いて（＊評論）  
渡邊茂

$$\begin{array}{ccccccccc}
 1 & & 32 & 30 & 30 & 29 & 27 & & \\
 & & & & & & \backslash & & \\
 & & & & & & 28 & & \\
 & & & & & & & & \\
 & & & & & & & 26 & \\
 & & & & & & & & \\
 & & & & & & & 22 & 21 & 20 \\
 & & & & & & & \backslash & \backslash & \backslash \\
 & & & & & & & 26 & 22 & 21 \\
 & & & & & & & & & \\
 & & & & & & & 14 & 12 & 10 & 9 & 8 \\
 & & & & & & & \backslash & \backslash & \backslash & \backslash & \backslash \\
 & & & & & & & 19 & 13 & 12 & 10 & 9
 \end{array}$$

窓（一）（*詩）	夜 1 6 （*詩）
眞壁仁君の『街の百姓』に寄せる（*評論）	養豚手帖 1 ～ 8 （*詩）
村の出来事（*詩）	カラス 1 ～ 5 （*詩）
十一月の日記断片	後記
受贈詩書	後記
「奥付」	後記
「裏表紙」	後記
第九輯 昭和八年十二月二十五日発行*	渡邊茂
梨畠と混沌さん／妻村に／秋（*詩）	猪狩満直
北国夜話／風（*詩）	中西悟堂
コタン（*詩）	土田楷夫
仕事が終つて（*詩）	更科源藏
子供の詩（*詩）	更科葉那子
冬 十二月／一月／二月／三月（*詩）	渡邊茂
【広告】（*猪狩満直詩集『秋の通信』）	眞壁仁
収穫（猪狩君の近業について）（*評論）	更科源藏
「秋の通信」に寄せる（*評論）	松田利秋
男の首（*彫塑）	松田利勝
（一）	茂木幹
後記	更科
9 8 7 6 5 5 4 3 1 i · ii	32 30 29 28 26 24 21 15 11 10 3
9 5 10 9 7 6 5 5 4 3 30 29 28 25 24 21 14 9	32 30 29 28 26 24 21 15 11 10 3
（表紙）	〔表紙〕
〔表紙〕	〔表紙〕
坂本七郎	坂本七郎
高田博厚	高田博厚
眞壁仁	眞壁仁
茂木幹	茂木幹
渡邊茂	渡邊茂
松田利勝	松田利勝
眞壁仁	眞壁仁
更科源藏	更科源藏
眞壁仁	眞壁仁
更科源藏	更科源藏
渡邊茂	渡邊茂
加藤愛夫	加藤愛夫
眞壁仁	眞壁仁
更科葉那子	更科葉那子
コタン	コタン
旅の歌	旅の歌
コタンにて	コタンにて
コタン有情	コタン有情
炭で書いた自画像	炭で書いた自画像
花屋と私	花屋と私
復活号を読んで	復活号を読んで
手紙（*隨筆）	手紙（*隨筆）
後記	後記
i · ii	i · ii
（一）	（一）
6 5 8 8 6 3 1 1 1 1 1	22 20 19 12 11
7 6 7 7 7 6 5 4 3 3 3	20 19

受贈書

〔奥付〕

〔裏表紙〕

## 昭和九年夏季版

昭和九年十月十日発行（通巻11号）

22 20 20

〔表紙〕  
〔目次〕<sup>\*1</sup>

土着の詩に就て（＊評論）

秋の通信を読む（＊評論）

秋の通信をうけて（＊感想）

手紙（＊感想）

『秋の通信』と猪狩君（＊感想）

『秋の通信』に（＊感想）

手紙（＊感想）

渡邊熊吉／稻を扱いた夜／苗代のびて（＊詩）

郭公（＊詩）

妻に与ふ（民謡）

坐棺（＊詩）

コタン／乾みみず

1・2（＊詩）

緑と雪と（＊評論）

二つの自然詩集（＊評論）

詩書断想（＊評論）

身辺記

詩書断想（＊評論）

身辺記

後記

更科

眞壁

更科源藏

眞壁仁

更科源藏

坂本七郎

眞壁仁

坂本七郎

金井新作

鈴木勝

加藤愛夫

眞壁仁

渡邊茂

萩原恭次郎

加藤愛夫

眞壁仁

鈴木勝

眞壁仁

渡邊茂

萩原恭次郎

加藤愛夫

眞壁仁

竹内てるよ

草野心平

眞壁仁<sup>\*1</sup>

草野心平

眞壁仁

竹内てるよ

眞壁仁

〔広告〕（＊『宮沢賢治全集』）

〔奥付〕

〔裏表紙〕

\*1 目次裏のページ（見開き右）からノンブル「1」が始まるため、便  
宜的に目次頁をiiiとする。

## 昭和十年春季版

昭和十年六月一日発行（通巻12号）

\*<sup>1</sup>

昭和九年夏季版

昭和九年十月十日発行（通巻11号）

22 20 20

〔表紙〕  
〔目次〕

第六夕暮の詩（＊詩）

四辺（＊詩）

むら（＊詩）

野良（同題ノ三）（＊詩）

人間事（＊感想）

炭で描いた自画像（三）（＊感想）

手紙（＊感想）

生活のその折々に／早春譜（＊短歌十三首）

晩秋／病床（＊詩）

隣／穴（＊詩）

雨催ひ（＊詩）

クルミのおもちや（＊詩）

後記

奥付

廣告

奥付

廣告

奥付

53 51 50

29 28 27 24 22 20 18 17 16 15 14 12 10 9 4 3 1

\*<sup>1</sup>

\* 1 この号ノンブルなし。

\* 2 表3（裏表紙裏、「詩歌書の印刷を御引受け致します 北緯五十度 印刷部」とある。）

創刊号には奥付がないが、第二号後記の記述により昭和五年一月二十日に発行されたものと思われる。第二号以降も奥付の体裁は不統一であるため、以下にそのまま書き写す。

第二号「一九三〇・二・二五、印刷発行／編輯印刷発行人 鉄路国弟子屈村字熊牛原野 更科源藏／発行所 鉄路国弟子屈村字熊牛原野 更科方 北緯五十度社」。

第三号、奥付なし。

第四号「編輯印刷兼発行者 鉄路市西幣舞町六八 葛西暢吉／発行所 鉄路市西幣舞町六八 北緯五十度社」。刊行日付なし。

第五号「一九三〇・一一・一五／鉄路市西幣舞町六八 葛西暢吉方／発行所 北緯五十度社」。

第六号「第6号 北緯五〇度／一九三〇・一一・二〇、刊行／発行所 鉄路市西幣舞町六八 北緯五十度社」。

第七輯「北緯五十度 第7輯／昭和六年四月三十一日印刷納本／昭和六年五月一日発行／編輯印刷兼発行人 鉄路市西幣舞町六八 葛西暢吉／発行所 鉄路市西幣舞町六八 北緯五十度社」。

第八輯「北緯五十度 第8輯／昭和七年十二月二十五日印刷／昭和八年一月一日発行／編輯発行人 鉄路国弟子屈村字熊牛原野 葛西暢吉／発行所 鉄路国西幣舞町六八 北緯五十度社」。

九輯「北緯五十度 定価十銭／昭和八年十二月二十日印刷／昭和八年十一月二十五日発行／編輯兼発行人 鉄路国クツチヤロ湖畔コタン 更科源藏／印刷者 東京市淀橋区柏木一ノ一十八 安田頼太郎／発行所 鉄路国クツチヤロ湖畔コタン 北緯五十度社」。

拾輯「北緯五十度 定価十銭／昭和九年三月二十五日印刷／昭和九年四月一日発行／編輯兼発行人 鉄路国クツチヤロ湖畔コタン 更科源藏／印刷者 東京市淀橋区柏木一ノ一十八 安田頼太郎／発行所 鉄路国クツチヤロ湖畔コタン 北緯五十度社」。

中心メンバーは、葛西暢吉（鉄路）、渡邊茂（同）、猪狩満直（福島）、眞壁仁（山形）、中島葉那子（夕張→弟子屈、一九三一年更科と結婚）。本誌は、アナキズム的傾向を持つ多数の詩雑誌の中でも最北の地で刊行されていたこと、また、秋山清・小野十三郎らの第二次『弾道』と激しい論争を交わしたことでも知られているが、現物の参看が困難な雑誌であり、『プロレタリア詩雑誌総覧』（戦旗復刻版刊行会、一九八二年）には、伊藤和旧蔵の四冊分（四・五・七・八）の細目が採られているにすぎない。

ただし、全十二冊であるという指摘も含めて、提出されている論考は皆無ではない（巻末文献リストを参照のこと）。

\*

更科源藏／印刷者 東京市淀橋区柏木一ノ一十八 安田頼太郎／発行所 鉄路国クツチヤロ湖畔コタン 北緯五十度社」。

行所 釧路国クツチヤロ湖畔コタン 北緯五十度社。

昭和九年夏季版「十月二日納本／十月十日発行／編輯印刷兼發行

人 更科源藏／印刷所 釧路国弟子屈村 北緯50度印刷部／發行

所 釧路国弟子屈 北緯五十度」。

昭和十年春季版「昭和十年五月二十五日納本／昭和十年六月一日

発行／編輯印刷兼發行人 更科源藏／印刷所 釧路国弟子屈温泉

北緯五十度印刷部／北緯五十度社」。

\* \*

本誌の前身には、一九二五年に葛西、渡邊が出した雑誌『銅鑼』

があり、一九二七年には更科が加わって『港町』さらにそれを受け

継いだ『至上律』があった。猪狩満直は北海道阿寒郡に一時期入植

したが福島県の人であり、眞壁仁は山形市に拠点を置いていた。『彈

道』との論争時に『北緯五十度』を強く支持した坂本七郎も本州の

各地で技術系の労働者として働きつゝ詩を書いていた。誌面からは

草野心平や中西悟堂らの名前も垣間見える。こうした点から言えば、

『北緯五十度』は「北方」のアナキズム系詩雑誌として稀少である

というよりも、詩人たちの広域的なネットワークが地方でこそ豊かな実を結ぶという意味で、アナキズム詩雑誌の本流を示したものといえよう。

開拓地・港湾都市・アイヌ集落など、近代化日本の諸矛盾が交叉する地「釧路国」を『北緯五十度』は多様に表現し続けた。前身を含めると、断続的ながらおよそ十年にわたって続けられた雑誌刊行の努力は並大抵の苦労ではない。秋山清によつて戦後も厳しく批判されているが、彼らの方法意識については別に分析を必要とする。

少なくとも、こうした地方のアナ系詩誌の実態は十分に解明されいるとはいがたい。

なお北緯五十度社は、雑誌掲載作品を中心とするアンソロジー『北緯五十度詩集』を刊行している。奥付には「一千九百三十一年版北緯五十度詩集／昭和六年十一月二十五日発行」とあり、「著作兼印刷发行人」は「山形市宮町二〇五一番地 真壁仁」、「刊行所」は「北海道釧路国弟子屈村 北緯五十度社」となっている。この詩集は、戦旗復刻版刊行会によつて一九八三年に復刻されていて、『プロレタリア詩雑誌総覧』にもその細目が採られているので、ここには掲載順にその概要のみ記す。

眞壁 仁 「蚕の詩」(10篇)、「祖母の詩」(4篇)

中島菜那子 「馬鈴薯階級の詩」(11篇)

渡邊 茂 「飲み仲間の詩」(5篇)

葛西暢吉 「叩き大工の詩」(16篇)

猪狩満直 「炭坑長屋物語」(10篇)、「非常汽笛」(6篇)

更科源藏 「コタンの学校」(29篇)

\*

主な参考文献には以下のものがある。松永伍一『日本農民詩史』(一九六七—七〇年)、鳥井省三ほか『釧路文学運動史』(一九六四—一七八年)、財団法人北海道文学館編『開館五周年記念特別企画展「北緯五十度」』の詩人たち 更科源藏と豊かな交流圏』(二〇〇〇年)、秋山清『秋山清著作集』第十一巻(二〇〇六年)。

北海道立文学館所蔵複写本を参考した。

(村田裕和)